

2023年度から

神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会の組織・機能が大きく変わります！



なぜ組織や機能を変えるの？

今起きていることの要因と、改善のためにどうしたらいいか考え、実践が大事だと思うからです。

日本では、女性・子ども政策が遅れているため少子化が加速し、経済規模は縮小しています。その上、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻の影響により、日々の生活は不安が増大しています。今後の生活に対する直接の影響を少しでも小さくしていきたい。W.Co運動が今まで実践してきたことは、自分事も大事にしながら、地域が少しでも良くなるように、みんなでたすけあいの輪を広げていくということでした。そのW.Co運動の価値を再認識し、地域に広げることが、結局は自分のためにもなるのだと思います。時代の荒波に揉まれ、W.Coの解散も増えていますが、こんな社会だからこそ、W.Co運動を広げていく意味が大きくなっているのではないかでしょうか。

社会情勢にあわせて変わると
より地域に寄りそえるし
自分たちの力にもなります



何がどう変わるの？

★ 地域や部門会議から委員を選出している委員会（共育・研修委員会、共済委員会、W.Co基金委員会）はすべて廃止になります。ただし活動をなくすわけではなく、理事会が機能を引き継ぎます。

具体的な実践方法はこれから検討しますが、理事の負担が大きくならないように事務局の関与を強めていく予定です。

★ 部門会議は業種別の枠を残しつつ、制度や事業経営に対する戦略的な視点を養い、スキルアップにつながるような事業マネジメント会議と、情報共有や交流を行う業種別連絡会に移行します。「機関会議」という位置づけから外れ、交通費等の費用は各W.Co負担になりますが、連合会会議室やZoom会議の予約は事務局が手配します。開催方法や回数などは、現在所属する部門会議で話し合って決めます。

★ 連合会会費の分配金比例分割を現行の0.6%から0.4%にします。シミュレーションでは、約680万円の収入減になるため、前出の「部門会議を機関会議としない」「委員会の廃止」によって交通費や事務局委託費などの経費削減にも取り組みます。また毎月発行の「うえい」を季刊にし、広報の紙媒体経費を削減します。しかし、これまで連合会主導で行ってきたメンバー募集や、W.Coの社会化運動などはもちろん、専門家との顧問契約やW.Co伴走支援などの支援体制は継続します。



W.Coからの質問・意見

共育機能について

質問 部門に特化した研修は必要！

伴走支援体制について

質問 事業マネジメントの相談・支援できる人材について、具体策はあるのか？
→あります。相談してください。

質問 支援体制を継続するとあるが、これまでの支援内容と成果と課題について教えて→支援の成果と課題については、公にしにくい面があります。伝わっていない情報の一つという認識を新たにしました。今後伝え方を工夫します。

会議の充実とスリム化について

意見 現在、部門会議でも理事会報告などさまざまな報告を行っているようだが、全てリーダー会議に一本化するのはよい。オンラインを活用して交通費、会場費の削減を目指す。全員がオンラインになれば、グループ毎の話し合いもできて今のやり方（ハイブリッド）より効率的だと思う。

意見 現状の地域W.Coリーダー会議への参加は便宜上、拠点のあるところになっているが、事業を県下で展開しているところにとっては、「神奈川全区」があってもよいと思う。

専門性を確保する機能について

意見 弁護士、会計士、社会保険労務士との顧問契約の継続は必須。

内外に向けての広報機能について

意見 広報について、データで送るなど
紙媒体を減らして欲しい

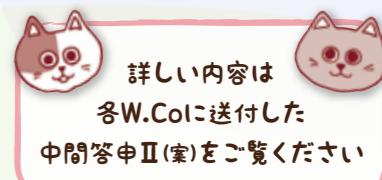
意見 機関紙「うえい」は、季刊発行にしたらどうか
→必要な情報について精査しタイミングを検討して、データで送ることも検討します。うえいは季刊発行の予定です。

会費のシミュレーションについて

意見 会費が必要なことは充分理解しているが、2年連続の最低賃金引き上げにより人件費が大幅に増加し、経営状況は非常に厳しく、連合会を抜けようという声さえ出ている。積立金を取り崩しても、最低でも分配金×0.4%は実施してほしい。（0.2%でも良いが…無理かな？）

事務局委託費について

質問 事務局の関わり方がよくわからない
→新しい予算案の検討が必要なため、詳細は今後詰めていきます。



（常務理事 小林麻利子）

2021年から「組織・機能のあり方検討プロジェクトチーム」では、中間支援組織としてのよりよい連合会のあり方について検討を重ねてきました。その検討結果を中間答申として昨年12月の地域W.Coリーダー会議と1月の部門会議でお伝えしました。今回はその大まかな内容と皆さんから寄せられた声を報告します。

この改革でめざすこと

地域に必要な事業を起こし、出資・経営参画・労働を担うというワーカーズ・コレクティブ（W.Co）が神奈川で誕生して40年以上になります。個々のW.Coでは事業や組織運営の課題解決が難しかった時代に、W.Co同士が連合することでさまざまな解決法を蓄積してきました。しかし、この間、社会や人と人との関係性は大きく様変わりしています。

プロジェクトチームでは、結束して問題解決する機能や役割を強めていくことが必要であると再認識し、それとともに会員から要望の多かった会費の見直しを検討しました。この改革を契機に、連合会に集うW.Coのポテンシャルを引き出すと共に、新たなW.Coを増やしたいと思います。そして、市民が主体の自治領域を拡げ、地域経済の活性化をめざして豊かな地域社会づくりを進めたいと思います。

（理事長：木村満里子）